

## 助成事業実施報告書

団体名 チャイルドラインたちかわ代表 氏名 山中 ゆう子

## ▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

## 1. 助成プロジェクト名

子どもの電話から見えてくる子どもの現状を知り、子どもに寄り添って話を聴ける大人を増やす

## 2. 実施団体の概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

2003年立川市の子どもの権利を考える市民委員会主催の「子どもの権利って何？」を聞いた有志が「チャイルドラインたちかわ」準備会を立ち上げ、2006年より常設電話を毎週日曜に開設。チャイルドライン電話カードを立川市、武蔵村山市、国立市の公立小中学校全生徒に毎年配布。電話受け手養成講座を隔年で開催。毎年活動報告書や市民公開講座で子どもの現状報告。2017年度会員 25名。

## 3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

児童虐待やいじめ、そして非行など、世間を騒がす事件事故が続いている。また格差や貧困問題など子どもにとって生きづらい社会となっている。子どもが持つ不安や悩み、嬉しいことなど「気持ちに寄り添って聴き、一緒に考えてくれる大人」がいることが必要と考える。話したい時にいつでも話せるツールの一つとして無料で話せる電話〈チャイルドライン〉はそんな子どもの声に耳を傾け、思いを受け止めることによって、子ども自身が気持ちを整理し自分なりの解決方法を見つける手助けをすることを目的としている。

## 4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

電話を通して見えてくる子どもの状況や課題を市民と共に考える公開講座を開催する。2017年度は新規受け手養成講座を開催する中で、市民向け公開講座を組み込み、①\*「子どもはAKU?～遊びのチカラ、子どもの今～」講師:天野秀昭氏 ②「チャイルドラインって何?～子どもの心に寄り添う～」CLたちかわ代表 山中ゆう子③子どもの貧困・いじめをなくすために～“子どもの権利条約”から考えよう～山梨学院大学法科大学院教授 荒牧重人さん④「性に悩む子どもの声をどう受け止めるか?」『子どもと性と性』著者 電話相談員 安達倭雅子さん⑤「小さく弱い声に耳を澄ます～」-POPに寄せて～白梅学園大学子ども学部 子ども学科教授 長谷川俊雄さん⑥「やすらぎから意欲が生まれる」～子どもの心配や不安が安心に変わる瞬間～NPO 法人育て上げネット 井村良英さん 以上6回の公開講座を行った。

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』300文字程度まで

2017年度の市民公開講座では、①～⑥まで合計参加者 88名。この講座は受け手養成講座の中で市民公開講座として開催した。また、スキルアップのために既会員も参加している。それぞれの参加者数は、

- ①「子どもはAKU?～遊びのチカラ、子どもの今～」では、18名
  - ②「チャイルドラインって何?～子どもの心に寄り添う～」では、8名
  - ③「子どもの権利と貧困」では、11名
  - ④「性に悩む子どもの声をどう受け止めるか?」11名
  - ⑤「小さく弱い声に耳を澄ます～J-POPに寄せて～」では、20名
  - ⑥「いいことしてるなんて思わない～自信を育てる関わりって?～」では、20名
- 成果として、3名が会員に、うち1名が新しい受け手になった。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

第8期新規受け手養成講座の中の市民公開講座として、立川市内の学習館や立川市報、あいあい通信、子ども未来センターの協働プログラムによる呼びかけなどの広報を行いました。養成講座参加者が3名という残念な結果となった。後に、知っていれば参加したかったという声もあり、広報のむずかしさを痛感している。2018年度はSNS担当を設け、漏れなく情報発信ができるようにしたい。

7. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動状況の写真などを参考資料として提供してください。

参考資料あり・特になし

## 2017 Shinjo プロジェクト チャイルドラインたちかわ

子どもの電話から見えてくる子どもの現状を知り、子どもに寄り添って

話を聴ける大人を増やす

### ① 市民公開講座

開催日：2017年10月15日(日)

テーマ

「子どもはAKU?～遊びのチカラ、子どもの今～」

講師：天野秀昭さん

NPO 法人プレーパークせたがや理事



### ② 市民公開講座

開催日：2017年11月12日(日)

テーマ

「子どもの権利と貧困」

講師：荒牧重人さん

山梨学院大学法科大学院教授



### ③ 市民公開講座 (写真はありません)

開催日：2017年12月10日(日)

テーマ 「性に悩む子どもの声をどう受け止めるか？」

講師：安達倭雅子さん『子どもと親と性と生』著者 電話相談員

### ④ 市民公開講座

開催日：2017年12月12日(火)

テーマ

「小さく弱い声に耳を澄ます  
～J-POPに寄せて～」

講師：長谷川俊雄さん

白梅学園大学子ども学部

子ども学科教授



⑤ 市民公開講座

開催日：2017年12月17日（日）

テーマ

「やすらぎから意欲が生まれる」  
～子どもの心配や不安が安心に  
変わる瞬間～

講師：井村 良英さん

認定 NPO 法人育て上げネット



チャイルドラインたちかわ主催 2017年度市民公開講座

## 「子どもの貧困・

## いじめをなくすために」

## ～ “子どもの権利条約” から考えよう～

チャイルドラインは、子どもをひとりの人間として尊重し、話を聴いていくなかで、できることを一緒に考えます。日本が1994年に批准した「子どもの権利条約」の理念・精神を基本として、特に第3条にある「子どもの最善の利益」を一番に考えているからです。

子どもの貧困やいじめをなくすための社会制度・しくみは必要ですが、場当たりのな対処療法にならないように、「子どもの権利」の視点を根拠として対応していくことが不可欠と考えます。

当日は、貧困やいじめに限らず、日々、子どものことで「おかしいな?」「なぜだろう?」と思った事を話し合ひましょう。

●日時：2017年11月12日(日)

午前10時～12時

●場所：立川市 子ども未来センター 201会議室

●講師：荒牧 重人さん (山梨学院大学法科大学院教授)

●定員：先着30名 (定員になり次第締切)

●参加費：500円 (当日会場でお支払下さい)

お名前・ご連絡先を明記し、下記いずれかの方法でお申し込みください。

FAX：042-531-5927 宛 メール：cl.tachikawa@gmail.com 宛

※いただいた個人情報はこの講座に伴う連絡以外には使用いたしません。

●主催：チャイルドラインたちかわ

※この講座は受け手養成講座を兼ねています。真如苑 Shjinjo プロジェクト助成事業



チャイルドラインは18歳までの子どもが主体となってかける子ども専用電話です。  
全国70団体のチャイルドラインが年間20万件もの子どもの声を受け止めています。